

グローバルズムとナショナリズムに関するインターゼミ

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科

GR (グローバルガバナンスとリージョナルガバナンス) プログラム

GNL (グローバルズム・ナショナリズム・ローカリズム) プロジェクト所属 修士課程 2 年

幸崎 雪玲

bwmpn953@sfc.keio.ac.jp

1. はじめに

本活動は、イデオロギーとして語られることの多いグローバル化とナショナリズム・ローカリズムの関係を、様々な国・地域における両者の相互作用 (融合・対立)、変容、およびその中における国家 (政府)・市民社会・共同体などの組織の役割・機能について、連帯経済・都市貧困問題・社会福祉活動・農村問題等に焦点を当て、学部生・大学院生が各自の研究発表及び意見交換を通して、地域や事例に即した具体的な考察を行うため実施された。

2. 目的

本活動を通して、各プロジェクトの専門領域に加え、学部・大学院間の学術交流をはかり、学問領域及び学生の学術的視野を広めることで、多分野にまたがる創造的な研究の構築・促進・発信を目的とする。

3. 活動内容

本活動は、7 月 31 日～8 月 2 日の 2 泊 3 日の日程で山梨県河口湖レイクサイドホテルにて行われた。主な活動内容は、本活動の目的に即し、3つのプロジェクト・研究会の大学院生・学部生による各領域における個人研究発表を中心に実施した。参加者は教員も含め 24 名おり、発表は質疑応答も含め一人 25 分で行われ、事前に提出された発表資料をもとに①開発・貧困、②政治、③環境、④自治、⑤華僑・華人、⑥思想・宗教・文化、⑦フェアトレードの 7 つの分類にわけ、以下の順番で発表を行った。

3. 1 活動概要

(1) 第一日目 (7 月 31 日)

第一日目は開発・貧困分野を中心に 5 名が発表を行い、主に以下の点について質疑が行われた。

時間	発表者	発表題目	司会	記録
14:30-14:55	近藤陽香	アフリカの都市に住む人々の生活	笠井 鹿久保	
15:20-15:45	鈴木芳章	中国における農民工の実態と意識		
15:45-16:10	服部恭則	開発教育の変遷と日本におけるその展開		
16:10-16:35	加藤寛大	汪兆銘政権における清郷工作	幸崎 堀江	
16:35-17:00	鈴木恵美	タイの華人社会をめぐる同化概念の再検討ーバンコクとプーケットにおける文化変容の事例分析からー		

- ・問題意識としての HIV と都市人口増加がもたらす問題について。
- ・農民工の流出入に関する定量分析について。
- ・問題意識と現行の開発教育に関する具体的な掘り下げの必要性について。
- ・南京政府時代における汪兆銘政権と国民党左派、農民とゲリラの関係について。
- ・同化の定義と清朝末期頃の廟産と地域社会について。

(2) 第二日目 (8 月 1 日)

第二日目は午前中に華僑・華人、環境分野を中心に 4 名が発表し、昼食の後、自治、政治分野の 4 名が発表し、休憩をはさんでフェアトレードの 4 名の計 12 名が発表を行った。

<午前中>

時間	発表者	発表題目	司会	記録
9:30-9:55	堀江ミキ	ニューヨーク州の新旧チャイナタウンについて	幸崎	鈴木 (理)
9:55-10:20	木村依里	海外華僑・華人による中国教育への貢献		

10:20-10:45	榎皆実	CDMによる持続可能な開発達成の現状と課題	田口	服部
10:45-11:10	山本健介	中国沿岸地域における企業に対する環境基準の考察—浙江省における環境暴動の事例から—		

- ・ヒエラルキーの形成背景とコミュニティ・移民について。
- ・中国教育の具体的内容と移民のマクロ部分について。
- ・CDMの評価基準と制度分析について。
- ・環境政策における政府と国民の関係について。

<午後①>

13:00-13:25	笠井賢紀	フィリピン・ケソン市の住民自治	田口	玉井
13:25-13:50	幸崎雪玲	地方自治体の対内国際政策—外国籍住民の間接的行政参加活動を事例に—		
13:50-14:15	多田雅美	文化大革命とバレー～革命バレーの	幸崎	堀江
14:15-14:40	羅陽	中国の石油産業管理体制に関する研究—1998年から始まった民営化改革を中心に—		

- ・開発評議会の主体の背景と事例の紹介について。
- ・分析枠組みと事例の明確化、国際比較について。
- ・革命バレーの評価と民衆への影響等について。
- ・政府-中小企業-民衆における政策展開と実状況について。

<午後②>

15:20-15:45	落水聡一朗	貿易の歴史と課題	玉井	榎
15:45-16:10	小熊千里	ネパールにおけるフェアトレード活動の発展—Fair Trade Group Nepalを中心に—		
16:10-16:35	鹿久保南	フェアトレードと消費者～日本市場拡大の可能性～		
16:35-17:00	田口剛	手工芸品分野におけるフェアトレードの可能性—FTCoとTARAPROJECTSにおけるサプライチェーンからの考察—		

- ・フェアの定義、貿易自由化と市場の議論について。
- ・生産者団体の主体の拡大と政府との関わりについて。
- ・日本のFT市場と国際成功事例の比較・検討について。
- ・先行研究の重要性と参考文献・論文の検索方法について。

(3) 第三日目 (8月2日)

第三日目は思想・宗教・文化の分野を中心に5名が発表を行い、最後に教員の総評を頂き、午前中に全発表を終了した。以下が質疑内容と総評の概要である。

時間	発表者	発表題目	司会	記録
10:00-10:25	宋寿蓮	西部大開発がチベット地域の住民にどう影響を与えたか～青海・チベット鉄道を中心に～	鈴木(恵)	幸崎
10:25-10:50	鈴木理紗	現代中国社会における知識人—戦後日本における知識人の思想との比較から—		

10:50-11:15	玉井隆	カメルーン都市における人びとの生活と宗教	鈴木(恵)	幸崎
11:15-11:40	山村頼子	日本における「パレスチナ問題」の表象		
11:40-12:05	陳実	ネットワーク時代における中国公共圏の一考察—アモイ市の化学工場を巡る抗議運動を中心に—		

- ・鉄道開発の政治・経済的影響と地域住民の意識について。
- ・悔恨の明確化と革命における知識人の役割について。
- ・宗教の農村から都市化についての再検討について。
- ・パレスチナ問題そのものの明確化と問題意識の再検討。
- ・現状と公共圏についての再検討、草稿の提出について。

<総評>

- ・今まで行ってきた研究分野以外の領域にふれることができ、非常によかった。
- ・他の研究室の学生同士が刺激し合える有意義な場。今後も同様の活動を検討したい。

4. 本活動の成果と今後の展望

様々な地域・分野における事例を通してグローバル化とナショナリズム・ローカリズムの関係を具体的に考察することができ、また意見交換などを通して学生の学術的視野を広めることができた点、さらには横断的な研究への進展的な活動となった点が、本活動の最大の成果として挙げられる。そして、本活動は複数のプロジェクト・研究会にまたがった従来の枠組みを越えた新規性のある企画として位置づけられると考える一方で、今回は多分野にまたがる知識共有が中心であったため、今後の展望としては一つのテーマをもとに各プロジェクト・研究室による共同研究と成果の共有など、より生産的で統一性のある活動を検討してゆきたい。

5. 謝辞

本活動を行うにあたり、ご協力頂いた先生方、他2名の幹事の方々、資料印刷をお手伝い頂いた方々、そしてご参加頂いた方々をはじめ、湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」のご支援に改めて感謝いたします。

6. 参考資料

本活動にて使用した発表用資料を参考資料として添付いたしますので、ご参照下さい。